

## 実践のまとめ（第5学年 社会科）

胎内市立中条小学校 教諭 富樫紀彦

### 1 研究テーマ

よりよい社会実現のために社会とどのように関わっていくか考え、

表現する児童の育成

～学習問題に対する問題意識と追究意欲を引き出す単元構成の工夫～

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

小学校学習指導要領解説社会科編の第5学年の目標(2)には「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。この記述から、社会についての理解のみならず、よりよい社会の実現のために、社会とどのように関わっていくのか考え判断し、表現することが求められていることがわかる。

これを受け、本研究では上記のテーマを設定した。実践を通して、児童が社会の一員としてこれからどのように行動していくべきかを考え、表現する姿を期待する。

#### (2) 研究テーマに迫るために

社会に対するよりよい関わり方を考え判断し、表現するためには、児童が学習問題に対する問題意識や追究意欲、問題に対する解決の見通しをもつことが重要であると考え。

そこで以下の手立てを講じる。

##### ① 追究の必要感を生む学習問題の提示

単元導入時に、資料を通して日本の食料自給率は低く、多くの食料を輸入に頼っていること、その状況は過去20年以上大きく変わっていないことを示す。この事実から、児童は、「日本は多くの食材を輸入に頼っているけれど、そのことが生活に大きな影響を与えているわけではない」という認識をもつだろう。そのような状態の児童に対してサラダ油の価格が過去一年間で高騰しているグラフを示す。すると、児童は多くの食料を輸入に頼ることの問題点に目を向けるようになり、今の日本の食料事情に対する不安を感じたり、国産の食材を何とか増やさなければならぬと考えたりするだろう。

しかし、国産の食料の割合を増やすには、天候や作物の生育環境など、いくつかの問題を抱えている。そのことを資料を通して気付かせ、国の食料自給率の目標値を示すことで、「そのために誰がどんな取組をしているのかを調べたい」という動機付けを図る。

##### ② 地域教材の活用

本校がある胎内市には、食料生産の発展を目指し、新たな取組を行っている複数の企業や団体がある。これらの企業や団体を教材として取り上げ、調べ活動を行う。自分が知っている人・もの・ことについて調べ活動を行うことは、学習問題に対する問題意識をもつとともに、追究意欲を喚起することにもつながると考える。さらに、消費者として自分がどのような行動をとるべきかを考える意欲付けにもなるだろう。

② まとめる・生かす場面での学習問題の再構成

本単元の食料生産に関わる人々の工夫や努力を調べる活動を終えた後で、「生産者の努力によって日本の食料の問題は解決するか」と問う。すると児童は「生産者の努力だけでは難しい」と考えるだろう。そこで、単元の学習問題を「食料生産をより良くするために自分たちにできることはなにか」という形に再構成する。その際、安易に「国産のものをたくさん食べればよい」という思考に陥らないように、事前にとっておいた保護者からのアンケートを提示する。実社会で消費活動を行っている保護者が価格を重要視していることから、その結果も踏まえ、よりよい社会実現のために、自分たちはどうしていくべきかについてより現実的な考えをもつことができるだろう。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ・ 消費者としてのこれからの自分の行動について、我が国の食料生産に関わる人々の工夫や努力と関連付けながら、考えをまとめることができる児童が 80%以上いる。(意見文)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

これからの食料生産 (小学社会 5 教育出版社)

(2) 単元の目標

食料生産に関わる人々が様々な工夫や努力をしていること、その営みが我が国の食料生産を支えていることを理解するとともに、各種の基礎的資料を通して、情報を適切にまとめ、食料生産における課題の解決に向けて多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。また、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料生産に関わる人々は、生産性を高めるように努力したり、販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。</li> <li>・ 各種の資料で調べ、文でまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、表現している。</li> <li>・ 学習したことを基に、自分たちにできることは何かを考え、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料生産に関わる人々の工夫や努力について、予想を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> <li>・ 学習したことを基に、自分たちにできることが何かを考え、表現しようとしている。</li> </ul>

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全 6 時間、本時 5 / 6 時間)

	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
つかむ (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料輸入のメリットとデメリット</li> <li>・ 輸入による農家の収益減少</li> <li>・ フードロス問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎食料自給率がすぐに上がらないのはなぜ?</li> <li>・資料を基に日本の食料生産の課題を考える。</li> </ul>	<p><b>知識・技能</b></p> <p>資料から日本の食料生産の現状と課題について捉えている。(発言・様子)</p>

日本の食の課題を解決するために、誰がどんなことをしているのだろう。			
調べる (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場栽培</li> <li>・直売所、直売コーナー</li> <li>・品種改良</li> <li>・6次産業化</li> </ul>	<p>◎食料生産に関わる人々がどんな工夫や努力をしているかを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題に対する予想を立てる。</li> <li>・各種資料をもとにグループごとに調べ活動を行い、ジャムボードにまとめる。</li> <li>・新潟食料農業大学のゲストティーチャーから話を聞く。</li> <li>・調べた内容を班で共有する。</li> </ul> <p>◎生産者の工夫や努力で食料の問題は解決できる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線分図を基に意見を表明する。</li> </ul>	<p><b>態度</b> 学習問題に対する予想を立て、主体的に追究しようとしている。 (発言・ノート)</p> <p><b>知識・技能</b> 食料生産に関わる人々が良質な食料を消費地に届けるために行っている工夫や努力について理解している。(ジャムボード)</p> <p><b>知識・技能</b> 資料から、食料生産に関わる人々の取組の工夫・努力を読み取り、ノートやタブレット端末にまとめている。(ノート、ジャムボード)</p>
食料生産をより良くするために、自分たちにできることはなにか。			
まとめる 生かす (2)  (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のまとめ</li> <li>・意見文の作成</li> </ul>	<p>◎食料生産をよりよくするために自分にできることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートをもとに、消費者として自分たちにできることを考える。</li> <li>・意見文にまとめる。</li> </ul>	<p><b>態度</b> 学習したことを基に、自分たちにできることが何かを考え、表現しようとしている。(発言・様子)</p> <p><b>思考・判断・表現</b> 食料生産に関わる人々の工夫や努力と関連付けながら自分たちにできることは何かを考え、表現している。(意見文)</p>

#### 4 単元と児童

##### (1) 単元について

前々単元の「米作りのさかんな地域」、前単元の「水産業のさかんな地域」では、児童は生産の工程や人々の協力関係、技術の向上、輸送方法や販売方法の工夫などに着目しながら、稲作と水産業に関わる人々は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることに気付いた。

本単元では、上記二つの単元のまとめとして、日本の食料生産には課題が残されていること、その課題解決に向けて新たな取組が行われていることを学習する。また、学習したことを基に自分たちは消費者としてどのようなことができるかを考えさせる。

##### (2) 児童の実態

本クラスは、社会科の学習に意欲的に取り組む児童が多い。資料を使った調べ学習では、1つの

資料から多くの事実を見付け、それらを結び付けて発表する姿が見られた。

一方で、学習したことを基にして自分の意見をもったり、表現したりすることには課題が見られる。ほとんどの児童にとって社会科の学習と自らの実生活とは切り離されており、社会の一員として何をしていくべきなのかを考えることができていない。本実践を通して、社会に対する理解を深め、自分にはどんなことができるかを考え、表現できる児童の姿を期待する。

## 5 本時の展開（令和4年10月20日実施）

### (1) ねらい

消費者として自分にできる行動について、ピラミッドチャートにまとめる活動を通して、これからの食料生産をよりよくするための主張と理由を関連付けて表現することができる。

### (2) 展開の構想

授業の導入でこれまでの学習内容を確認した後で、視点をこれまでの生産者から自分たち消費者に移し、自分たちには何ができるかを考えさせる。出た考えを学級で共有する。その後、学級で出た考えの中から自分ができることを一つ選択させ、なぜそう考えるのか、どの学習内容からそう考えたのかをピラミッドチャートにまとめさせることで、次時に書く意見文への見通しをもたせる。

### (3) 展開

時間 (分)	学習活動	・教師の働きかけ 予想される児童の反応	□評価○支援◇留意点
10	○これまでの学習内容を振り返る。  ○本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習内容を振り返りましょう。</li> <li>C：生産者の人たちの工夫や努力だけでは、食の課題は解決しない。</li> <li>・消費者が協力しないとどうなりますか？</li> <li>C：生産者の人たちが困る。</li> <li>C：もっとフードロスが増える。</li> <li>・だったら国産の物をたくさん買えばいいんだね。</li> <li>C：それだと高いよ。</li> <li>C：絶対無理。</li> <li>・自分たち消費者にはどんなことができるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇これまでの学習内容を想起させ、消費者としての責任もあること、このままではいけないことをおさえる。</li> <li>◇資料「保護者アンケート」、「麦ばたけの値段」を提示する。</li> </ul>
食料生産をよりよくするために、自分たち（消費者）にできることは何か。			
15	○自分にできることは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちにできることは何か考えてみましょう。</li> <li>C：フードロスをなくすためになるべく残さないようにする。</li> <li>C：肉とかをたくさん買うんじゃなくて、日本でたくさん作られているものを買</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商品を選ぶ際に価格も大切であることをおさえる。</li> <li>○書けない児童に対しては、「食料生産に関わる人々の工夫や努力に応え</li> </ul>

15	○全体で意見を交流する。	<p>うようにする。</p> <p>C：国産か輸入かを考えて、値段が同じなら国産のものをかうようにしたらいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えを聞いてみましょう。</li> <li>・自分たちにできること、その考えの理由をピラミッドチャートにまとめましょう。</li> </ul> <p>C：<b>主張</b> 国産か輸入かを考えて商品を買ったらいいと思う。</p> <p><b>理由</b> 国産のものをたくさん買えば、農家さんの収入が増えると思ったから。</p> <p><b>学習内容</b> 農家さんは収益を増やすためにとったものを自分たちで加工する6次産業化に取り組んだりして工夫している。</p>	<p>るために自分たちにできること」という視点で書くように促す。</p> <p>◇ピラミッドチャートの1段目に主張、2段目にそう考えた理由、3段目にどんな学習内容からそのような考えになったかを書く。</p> <p>□学習したことを基に、食料生産をよりよくするために、自分たちにできることは何かを考え、表現しようとしている。(様子)</p> <p>□自分たちにできることは何かを考え、表現している。(発言・ノート)</p>
5	○次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の時間は、これから自分たちにできることを考えてみましょう。</li> </ul>	

#### (4) 評価

- ・ 学習したことや友達の発表を基に、食料生産をよりよくするために自分にできることを考え、ノートに自分の考えを書くことができているか。(思考・判断・表現)
- ・ 学習したことを基に、食料生産をよりよくするために自分たちにできることは何かを考え、表現しようとしているか。(主体的に学習に取り組む態度)

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

本単元では「つかむ」「調べる」「まとめる・生かす」の3段階の構成で授業を行った。

#### ① 「つかむ」

小麦粉の値段が2022年夏頃から急騰している資料、日本の食料自給率が37%である資料を示し、「国産食品を増やした方がいいと思うか、それとも今のままでいいか」を問うた。するとすべての児童が「国産の食品を増やした方がよい」と答えた。そこで児童が考えているのと同じように国産の消費を増やした方がよいと考えている人が多くいるのになぜ食料自給率が上がらないのかを考えさせた。

児童からは、「外国産の方が安いからではないか。」「日本は台風や地震があるから作物が育たないと思う。」という予想があげられ、予想を検証するために教科書、タブレット端末を使って調べ活動を行った。調べ活動を通して、児童は「輸入食品は価格が国産に比べて安い」「日本では作りにくいものを作ることができる」といったメリットがあることに気付いた。こうしたメリット

を知ってもなお、ほとんどの児童は「国産の食品を増やした方がよい」と考えていたが、そのうち約半数の児童は「国産の食品を増やすために生産者はどんな取組をしているのかを調べたい」という意識にまでつながらなかった。そのため、学習課題は「日本の食の課題を解決するために、誰がどんなことをしているのだろうか」として教師が設定・提示した。

② 「調べる」

「食料自給率が低く、輸入に頼っていること」「多くの食品を廃棄していること」という日本の食の問題点を解決するために、生産者が何をしているのかを調べた。具体的な内容としては、小麦の品種改良、いちごの工場栽培、直売所での野菜販売、6次産業化を取り上げ、この4つの資料を提示し、生産者がどのような取組を行っているかを教科書とタブレット端末を使って考えさせた。調べ活動の結果、児童はそれぞれの取組には、メリットとデメリットがあることに気付いた(図1)。

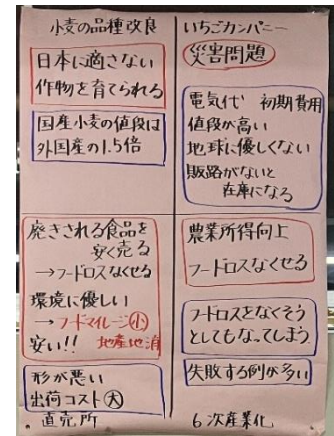


図1

③ 「まとめる・生かす」

4つの取組を調べた後で、児童に「生産者の取組だけで、日本の食の問題は解決できるか」と問うた。すると欠席児童を除く28名中26名の児童は、解決できないと答えた。解決できると答えた児童は、「生産者が工夫すれば消費者にいっぱい買ってもらえるようになる」と答えており、消費者の消費活動も必要と考えている点で、生産者の取組だけでは解決できないと考えていることを全体で確認した。

こうした前時までの学習をもとに、学習問題を「食料生産をよりよくするために自分たちができることはなにか」と再構成し、意見文を書く活動を行った。その前段階として5/6時では、ピラミッドチャートを使い、日本の課題を解決するために「何をしたらよいか」「そう考える理由は何か」「どの資料や学習内容からそのように考えたのか」をまとめさせた。6/6時では「自分の取組が生産者の取組とどうつながるのか」という視点で、意見文を書かせた(図2)。

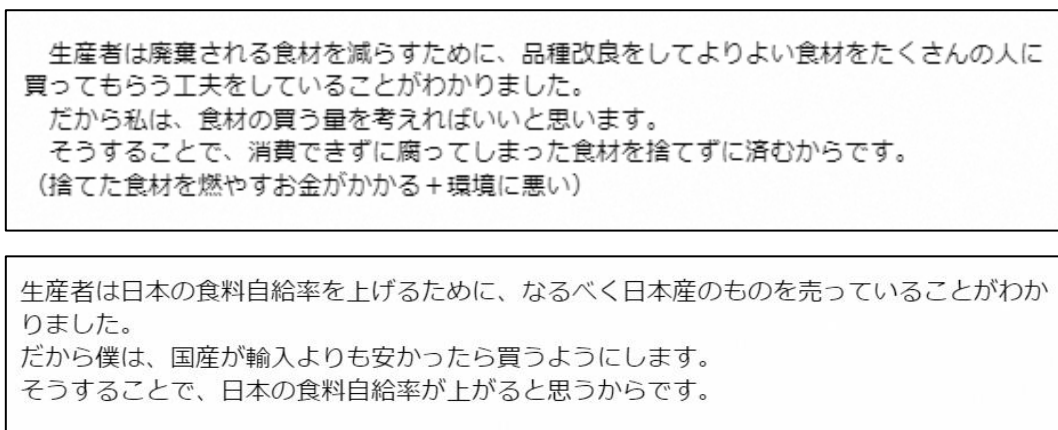


図2

(2) 研究テーマに関わって

単元終了時に「消費者としてのこれからの自分の行動について、我が国の食料生産に関わる人々の工夫や努力と関連付けながら、考えをまとめることができた児童」は27名中15名で56%だった(6名欠席)。

4/6時ではこれまで生産者の立場から追究活動を行ってきた児童に対して、「生産者の工夫や

努力で食料の問題は解決できるか」と問うた。児童からは「消費者も努力しなければいけない」「生産者がいくら頑張っても無理だ」という声があがり、追究活動の視点を生産者から消費者へ変えることができた。

また、地域にある工場や直売所を教材として取り上げたこと、地域で学ぶ学生から直接話を聞く機会を設けたことは、児童の興味・関心を引き出すという点で大変有効であった。地域で学ぶ学生から話を聞いた後の振り返りには、以下の記述が見られた。

- ・6次産業化でなんでフードロスをはらせるのかが分かりました。他に6次産業化でどんなものを作っているのかを知りたいです。
- ・6次産業化はタブレットで調べたときはよく分からなかったけど、胎内市や群馬県などいろいろなところで6次産業化をやっていることが分かりました。今度よく調べてみたいです。

これらの記述から、地域教材の活用によって児童の追究意欲を引き出すことができたと考える。

一方、目標に到達できなかった児童は、全員がこれからの自分の行動と理由を書くことはできていたが、それらを食料生産に関わる人々の工夫や努力と結び付けて記述することができていなかった。本単元ではこれらを結び付けるための手立てとして、ピラミッドチャートを上段から下段に向かって書かせたのだが、最下段「どの資料や学習内容からそのように考えたのか」を書く際に戸惑ってしまう児童が複数見られた。

児童にこのような姿が見られたのは、学習内容の蓄積のさせ方に問題があったためである。毎時間の学習内容を一つのワークシート上にまとめさせたり、振り返りのみを別に記述させ蓄積したりするなどして、これまでの学習内容や、社会的事象の結びつきが一目でわかるようにし、ピラミッドチャートで学習を振り返る際に活用できるようにするべきであった。

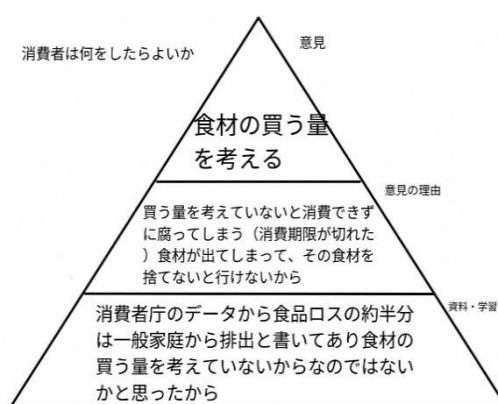


図3

### (3) 今後の課題

資料と予想とのズレを感じさせることで、社会的事象についての問題意識と追究意欲を引き出すことができた。しかし、それは教師の意図した方向に向かなかった。ズレを生むだけでなく、学習の方向付けができる資料の内容、提示方法の工夫について今後検討をしていきたい。

意見文では、27名中23名が食料自給率向上ではなく、フードロス解消のための意見を記述していた。食料自給率についても学習していながら、このようにフードロスについての意見文のみが多くなってしまった理由は、フードロスは児童にとって身近であったことがあげられる。また、単元の中で「食料自給率が低いにも関わらず、フードロスが多い」という教師側の提示の仕方が、児童に「日本の食の問題はフードロスの方にある」ととらえさせてしまったためであると考えられる。今後は、単元を作る際に社会の人々の工夫や努力に焦点を当てるためにどのような題材がふさわしいかを精選するとともに、児童と学習問題を共有できるよう、提示の仕方を検討する。児童は意欲的に調べ活動に取り組んでいたが、その内容が意見文に表出されなかった児童が多くいた。調べた内容やその意味を児童が意識し、まとめにつなげられるような教室掲示や学習のまとめ方についても改善を図る必要がある。

<参考・引用文献>

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』日本文教出版, 2018
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校 社会）』  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
- ・新潟市立浜浦小学校『新潟県学習指導改善調査と浜浦小学校校内研修について』平成 22 年度学習指導改善調査研究事業, 2009  
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/chosa/21kyouryokukou/21%20hamaura/21hamaura%20gaiyou.pdf>（参照 2022-06-28）
- ・いちごカンパニー『ICHIGO COMPANY ONLINESHOP』株式会社小野組, 2022,  
<https://15company.jp/>（参照 2022-06-28）
- ・澤井陽介『澤井陽介の社会科の授業デザイン』東洋館出版社, 2015
- ・食品ロス削減関係省庁等連絡会議『食品ロスの発生状況と要因について』消費者庁, 2013  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/exchange\\_of\\_opinions/pdf/131028\\_all.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/exchange_of_opinions/pdf/131028_all.pdf)（参照 2022-10-08）